

平成23年度エチオピア「住民参加型初等教育改善プロジェクト」 フォローアップ報告

香 西 武

Takeshi KOZAI

鳴門教育大学

Naruto University of Education

実施時期：2012年3月3日～3月10日

日程の概略：

- 3月3日 日本発
- 3月4日 エチオピア・アジスアババ着
訪問調査打ち合わせ
- 3月5日 エチオピアJICAにてSMASSE, Ho ManaBU
プロジェクト, JICA 事務所と打ち合わせ
オロミヤ州教育局にて訪問調査の詳細に
ついて打ち合わせ
- 3月6日 モジョ高等学校にて授業観察と事後研修
コロバハワス小学校へ移動, 現状の聞き
取り
- 3月7日 アルシ県教育事務所にて SMASSE の聞
き取り
アセラ TTC の理科環境の視察及び
SMASSE の取り組み視察
ボレ小学校にて今後の交流計画について
の話し合い
- 3月8日 モジョ高等学校にて研究授業フォロー
アップ及び授業観察, 事後研究
- 3月9日 アレムゲナ小学校で授業観察及び事後研
オロミヤ州教育ダバ局長へ訪問調査結果
及び提言の報告
JICA エチオピアへ調査結果及び提言内
容の報告, 今後の取り組みについての情
報交換
19:30 アジスアババ発
- 3月10日 日本帰国

視察メモ：

日付：

3月6日(火)

訪問先：Mojo High School, Magacha Primary School

主要面談者：Mojo High 校長, SV, 数学教員, Magacha
Primary 校長, 教員

視察内容

Mojo High School

ダバイニシアティブ WS 参加校の中で, 最も取り組
みがすすんでいて, やる気がある学校である. WS 後,
Mojo High の教員だけでなく, 近隣の小学校の教員も
含めて, 既に授業研究についての研修を実施済である.
これは, JICA シニアボランティアによる働きかけの成
果である.

数学教員による模擬授業を観察し授業後検討会に参
加した. 授業研究のサイクルは導入されており, 教員は,
新しい取り組みに柔軟な若い教員が多く, 第一シフト
教員と第二シフト教員が協力して授業を観察していた.

授業後検討会の運営や授業研の実施方法については
今後工夫, 改善をしていかなければならない点があった.

Magacha Primary School

Ho ManaBU プロジェクトの前のプロジェクトであ
る ManaBU の対象校で, 遠隔地にある学校である. 当
時は日本からの訪問者も多く, 開校数年でドロップア
ウトがゼロとなった学校であった. 5年前に香西が授
業研究の導入を探るため, 授業を実施し, 4年前に再
度訪問した学校でもある.

今回訪問すると, 4年前と比べて学校の柵や校舎の
壁は壊れ修繕されない. 教室に置いてあった手作り教
材も見られなくなっていた. 教員は2年が任期でかわ
るため, 香西や ManaBU の取り組みを知る教員はいな
かった. 教員の生活環境は厳しいため, 新任教員が代々
配属されている. 教員は2年で異動希望をするのが常
で, 教員不足が大きな課題だそうである.

以前は, 生活環境が厳しく(水場の確保), 学校に行
くことのできない環境があった. そのため, 中途退学
者が多い学校が一般的であったが, 地道な取り組みに
よって, 前述のように, ドロップアウトがゼロとなっ
ていた. 現在は, 灌漑が充実した結果, 近くに進出し
た玉ねぎ農場での労働ができるようになり, 住民の生
活が向上してきた. ところが, それまで中途退学がゼロ
であったにもかかわらず, 10歳以上の中途退学が増え

る結果になってしまった。教員の説明では、地域の興味が教育からお金をかせぐことに移ってしまった、とのことである。

ガブレ氏は、問題点を抽出し、アセラ県教育事務所に改善するよう促すとのことであった。

ManaBU 学校の現状は、プロジェクトの持続性を考えるうえで示唆に富むことであった。また OEB スタッフとの同行は、プロジェクトの現状把握、対応策の検討を同時に行えるという観点から、大変重要である。

3月7日(水)

訪問先：Arsi 県教育事務所, Arsi 県 TTC (教員養成校), Bole 小学校

主要面談者：Arsi 県教育事務所所長代理, Arsi 県 TTC 校長

視察内容

Arsi 県教育事務所

SMASEE の進捗と課題の聞き取りを行った。

192 の CRC (クラスター、センター校と衛星校数校からなる) から、7、8 年生理数教科担当の教員から 4 人を選抜し合計 768 人の「キーティーチャー」を対象に研修実施済みということであった。研修の評価は大変良く、それぞれの教員の苦手分野も明らかになった。

研修の後、クラスターレベルでその他教員に向けてカスケードで研修をすることになっているが、実施したとの報告は数件しかあがっていない。現場で研修が実施されていない原因として研修予算がないことがあげられる。

SMASEE 側より、予算が政府負担原則であることが説明され、県教育事務所も了解する。現場での現実的な研修については、3 月に行政官を含む SMASEE ワークショップを開催し、話し合う予定で、Arsi 県では、SMASEE フォローアップとして、校長対象研修を実施する予定である。

ガブレ氏より、1) 授業研究全州普及に向けたダバ局長計画について共有され、また 2) 昨日訪問した ManaBU 学校の状況報告とフォローアップ要請があった。

Arsi 県教育事務所所長代理は、ManaBU および Ho ! ManaBU の県フォーカルパーソンであり、日本の支援に大変好意的な方である。昨日訪問した Magacha 校のような状況は例外的であることを強調していた。

Arsi 県 TTC

TTC では、SMASEE からの要請で、Arsi 県キー教員の研修実施部分を担当している。3 つの研修会場にて実施し、とても良いスタートをきった。5 日間の研修が適切であるかは再調査が必要である。研修終了後、現場での実施状況は把握していないとのことである。

ガブレ課長は、昨日訪問した ManaBU 学校の状況に

つき即座に対策を実施した。OEB 幹部との視察は、現状の共有および課題の解決に向けて大変効果的であると感じた。

Bole 小学校

3 年前訪問した際に、日本の学校との交流を実施した小学校である。校長から今後も交流を続ける希望があることを伝えられ、交流の橋渡しを要請された。

注) 香西は帰国後、スカイプを使った高知の小学校とボレ小学校の交流を実施している。

3月8日(木)

訪問先：Mojo High School 及び Ejersa school

本来の予定では Ejersa school を訪問する予定であったが、香西は 2 日前に訪問し、授業研究を実施した Mojo High School のフォローアップ授業研究のため、再度 Mojo High School を訪問した。

Mojo High School では、3 / 6 日に研究授業を行った教員の授業を再視察。3 / 6 日の授業研究で指摘された点については、全て改善がなされた授業であった。この点は、驚きであった。また、授業後の他の教員からのコメントも、改善された点について賞賛され、さらに新たな改善点として、生徒の理解度の把握について意見が出された。

わずか数日間で、授業について改善がなされていることは、エチオピアの教員の質の高さとまじめさの現れであろうと思う。

3月9日(金)

訪問先：アテムゲナ小学校

ガブレ課長のホームグラウンドで、連絡調整もうまくいっており、小学校の歓待をうけた。授業は、数学、8 年生をみた。説明を生徒にさせたり、グループワークを取り入れそれぞれのグループで説明をさせたり、多様な活動を入れた授業であった。

授業研究会では、いい点、課題等が話し合わされたが、教員同士の議論には発展しなかった。そのため、グループワークの前に何人かの生徒に説明させるか、グループワーク後に説明させるという指導方法上の対立点をつくり、議論を進めた。今後、どういう場合にどういうグループ編成を使うかということについて、検討していこうということになった。

3月9日(金)

ダバ局長への提案 (局長の部屋にて)

今回の訪問を通じた感想と提案を行った。その提案は、授業研究参加者の支援体勢、ファシリテータの能力向上、TTC のカリキュラムに授業研究のトピックを入れることである。

その後、エチオピア JICA において、今回の訪問で得た内容について報告を行った。